

自由に歩いて集う人々

先日、あるところで行われた都市の設計についての研究会に参加した。世界のあちこちで注目されている都市設計について、専門家の方からいろいろ興味深い話を聞くことができた。人々が快適に過ごすことができるのが都市の役割であり、そこで多様な人が集うことでいろいろな見方が生まれ、交易や商業活動も活性化される。

伊藤 元重

機構大教授
開発大教授
研究大教授
合事大教授
理事大教授

う考え方だ。広場や公園は街の重要な要素である。しかしそれと同じように重要な存在が街路であるという。それも車が入らなくて、人々が自由に歩くことができる街路である。

図書館やカフェがあれば、そこに人が集まるので面白い。高齢社会では、診療所や介護施設などもそうした町中にあるとよい。ヘルシードロードという言い方があるようだが、健康維持やリハビリのためには歩くことが重要である。そうだが、そうした歩行が楽しい場所が好ましい。

都市の中心に快適空間を

全て歩道に面して、そこをいろいろな目的を持った人が歩いていたり、歩道の脇のベンチやカフェに座っていたりすることが街の魅力を高める。

これは旧来の商店街とも少し違う。物販の店だけの街では、買い物客しかこないの面白くない。

店の外にテーブルが出ており、そこで人々がおしゃべりに興じている。欧州などに旅行した人はこうした光景を見たはずだ。

街の姿で変わる郊外店

車社会は私たちの生活を便利にしてくれた。郊外の商業施設は買物の姿を変えてしまった。こうした変化が悪いとは思わない。もし自動車を利用できなければ、多くの人の生活は成り立たないから

造は時代遅れになっているように思える。郊外の大規模店舗で買い物をする人が増えるかどうかは、今後の街の姿によって変わってくるのだ。

重要なことは、都市の中心に快適な空間を維持できるのかどうかということだ。21世紀の私たちの生活を考えれば、それは20世紀型の商店街とは少し違った存在であるはずだ。

欧州の古い街では、こうした街路と広場がうまく連携して、魅力ある街を形成している。狭い道を歩いていると突然小さな広場に出る。そこでは市場などが立っていた。古本屋などがあって、立ち読みをしている人もいる。道に沿ってカフェがあり、多くのカフェは郊外の商業集積との対立という構

欧州の古い街並みをまねる必要はないが、参考になる点は多くあるはずだ。車から遮断された歩道の空間。多くの人が自然と集まってくるような広場。ヘルシーロードとしての機能を果たせる街並み。人口が減少しているからこそ、そうした空間で都市の機能を活性化させる必要があるだろう。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。